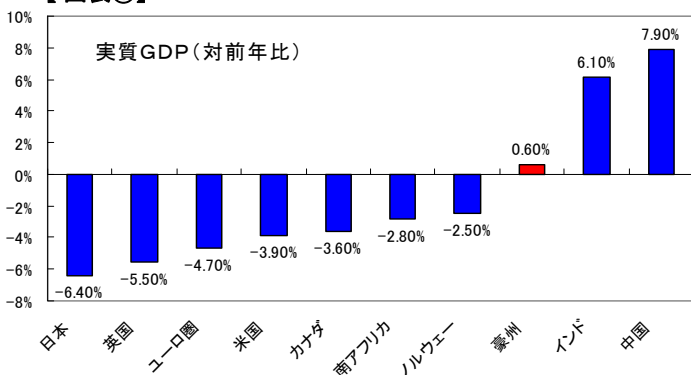


豪州の金融・経済動向と豪ドル

- ✓ 豪州準備銀行(RBA)は市場の予想通り、政策金利を据え置き、現行の3%とした。
- ✓ 4-6月期の豪州GDP成長率は市場予想を大幅に上回り、主要先進国の中で唯一前年比0.6%のプラス成長となった。
- ✓ 景気回復観測とアジアの主要輸出先の生産回復を受け、来年の利上げ観測も台頭し豪ドルは堅調推移。

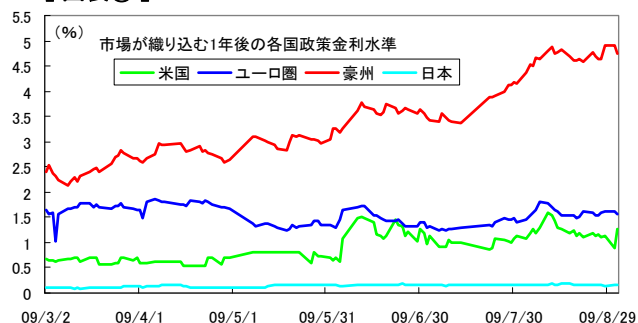
豪州の4-6月期GDP成長率は主要先進国の中で唯一の前年比プラスを計上しました(図表①参照)。市場予想のおよそ倍近い数字を見て、来年の利上げを織り込む市場参加者も増えてきました。RBA総裁は「経済成長は予想よりも堅調であり、2010年に強くなる見通し」と述べており、利上げ観測の論拠にもなっているようです。市場参加者の将来の利上げ観測を反映するOIS(オーバーナイト・インデックス・スワップ)市場では豪州の予想ベースの1年後の政策金利が4.75%程度に上昇しており欧米日と乖離が広がってきました(図表②参照)。

【図表①】



出所:ブルームバーグ

【図表②】

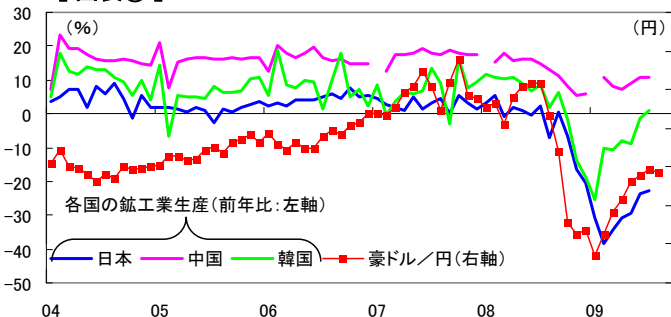


出所:ブルームバーグ

豪州景気のうち、内需は200億豪ドル(約1兆5400億円)規模の政府給付金などの影響もあり前述のGDP成長率に寄与しました。一方、外需も鉄鉱石や石炭等、豪州の一次産品輸出シェアの約4割を占める日本、中国、韓国の鉱工業生産が回復しており追い風環境になっています。豪ドルはこれに連れて堅調推移となっています(図表③参照)。

金利差が為替の動向と密接に連動する条件の一つは、為替の振れ幅(ボラティリティ)が低いということです。図表④の赤折線グラフは日本と豪州の3ヶ月金利差をインプライドボラティリティ(※)で割った円キャリー取引指数です。この指数の値が大きい局面では、金利差と為替の関係が強まる傾向が見られます。豪ドルの円キャリー取引指数は上昇傾向にあり、これに連れて豪ドル/円も連れ高しています(図表④参照)。言い換えるならば、豪州は円キャリー取引復活の条件が整い始めたと言うのでしょうか。

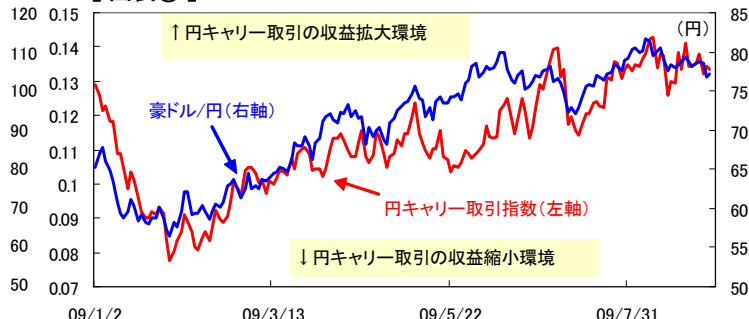
【図表③】



(注) 中国の鉱工業生産はデータ断裂あり

出所:ブルームバーグ

【図表④】



(※) 市場参加者が今後の相場変動をどのように考えているかを測る指標のひとつ。

出所:ブルームバーグ

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

